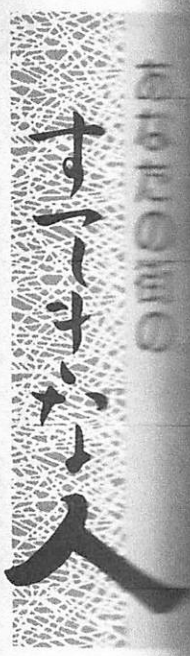
ると、ふくらみが早ま



「鉄観音」プレゼント実施中
人参濃縮液
専売庁検査合格品
13,500円
ラファミリー
9,800円

みんなの 健・康・

どうしましたか？ ドクター

■こどもの心の発達（第26回）

―行動障害―

大分大学教育学部
助教授 小林隆児

個人ないしは集団で攻撃的な反社会的行動を示す場合を指しますが、その原因には、遺伝、染色体異常、周産期障害、脳障害、気質、環境など様々な要因が関係しています。

13歳のN子は自宅から2時間もかけて都会の有名私立中学に通っていましたが、学校で友達に突然叩きかかったり、攻撃的になることが問題になり、当科に親子そろって相談に来ました。知的にはかなり優秀なのですが、面接場面ではほとんど語らず、質問されるとすぐに親の顔色をうかがい、代わりに答えてもらいたそうな仕草を繰り返し、いかにも幼いという印象を与える子でした。しかし、学校は嫌がらず、毎日早朝から起きて登校していました。

元来、自己表現が苦手で、行動で物事を解決する傾向が強く、兄弟げんかも多かったし、小学校でも他児とよくけんかをしていたといいます。どうも対人関係のようなことがこの子の特徴のようでした。才能はあったのでしょう。母親はこの子に4歳からピアノを習わせ、かなりの期待を持って鍛えたそうで、体罰も辞さなかったそうです。家族全体に行動優位な傾向があるようです。

でもN子の攻撃的行動の動機には了解困難な印象があったので、念のために脳波検査をしました。年齢に比べて脳の成熟度が低く、さらに発作性異常が高頻度に出現していました。脳波異常とN子の症状には関連性があると思い、衝動的行動にも効果を示す抗けいれん剤の一種を処方したところ、衝動性が低下し、随分と攻撃的行動が減少していきました。

結局、転校して地元の学校に通うようにはなりましたが、当初に比べて随分落ち着いてきています。恐らく、脳の機能障害と環境要因が複雑に関連しているのでしょうが、まだ精神的に余りにも幼すぎるにもかかわらず無理に背伸びさせてしまったことが問題を大きくさせてしまったように思いました。

指しゃぶり

福岡歯科大学
小児科歯科学教室
助手 石井 香

私たちが診療室においてよく受ける質問の一つに指しゃぶりの問題があります。歯科医師としては、指しゃぶりを続けることによって確かに前歯が噛み合わなくなったり、出っ歯になったりするので、出来れば一日も早く中止して欲しいと思います。しかし、胎児の時多くの子供が指をしゃぶっているという報告もあるくらいで、乳幼児期の指しゃぶりは生理的なものだと考え、気にしないほうがよいようです。ただ、心理的因子がからんだ指しゃぶりは問題です。この場合、母親が注意して無理やりに止めさせようとすると、かえって長期化したり回数が増えたり、他の癖や行動異常に移行することがあります。もともと指しゃぶりは、悲児の母親に対するやさしさや愛情の欲求が置き換えられたものと言われています。したがって心理的因子の介在する指しゃぶりの治療には、期での指しゃぶりは、通常幼稚園に入園し多くの友達が出来てくると自然に止めてしまう事が多いようです。これは幼稚園生という環境の変化に加え、子供自身に自立心が芽生えてくるからです。しかし、幼稚園を過ぎてもまだ止められないような場合には、母親に愛情表現の再検討をさせる必要があります。ただし、玩具やお菓子を買い与えるような愛情表現では、止めさせることは出来ません。このように書いてしまうと母親だけが悪いようになりますが、このような家庭には父親にも責任がある場合が多いようです。最近の父親は母親に教育を任せてしまい、仕事にかまける傾向があります。このために、母親は子供の教育上で父親の役割も負担することになり、親としての愛情表現も半減してきます。このように指しゃぶりを止めさせるためには、母親の子供に対する理解と父親の協力が必要であり、いたずらに子供を注意したり非難するような態度は慎むべきで

健康コラム

耳だれ

Q 一歳半の男の子ですが、いつも耳の入り口にねっとりした黄色いものがついています。気づくたびにふいてやっていますが、耳の病気でしょうか。

A 耳だれと耳あかの二つが考えられます。耳だれは、中耳炎や外耳炎があって、膿が流れ出してくるものです。しかし、急性のときには、耳だれ以外にも、発熱、痛み、ふきげんなどの症状があるはずです。もう一つは、遺伝的に耳あかの軟らかい、いわゆる〝あめ耳〟の場合が考えられます。耳あかは、ふつうかさかさしている場合が多いのですが、ときにはべとべとして、軟らかい場合があり、こういう耳あかですと、外耳道の入り口のところまで流れ出してくることがあります。もちろん痛み、熱はありません。このあめ耳は遺伝で、両親のどちらかがあめ耳のことが多いものです。また、耳あかなら、両方同じように出ますが、耳だれは、悪い方の耳からだけです。耳の炎症が疑われるときは診察を受け、また、あめ耳の場合は、オリーブ油でふきとるとよいでし